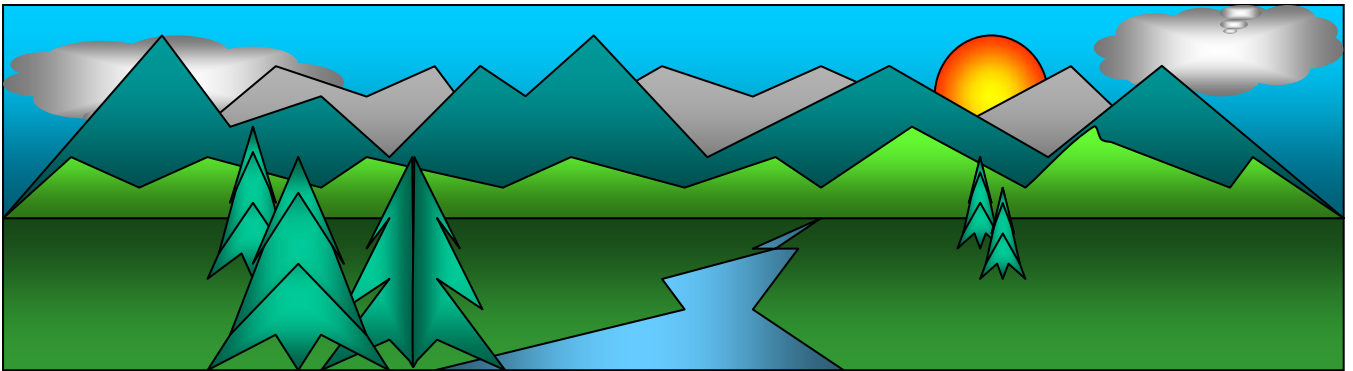

農学実験Ⅳ

2005年6月24日に

多摩水道橋下流左岸で

見られる植物の図鑑



トクサ科

イヌドクサ

全体的に硬質で、地上茎はスギナのような輪生した枝をつけないので、棒状に見えます。高さは1mを超えることがありますが、写真のように倒伏することもあります。



スギナ

どこにでも見られるシダ植物です。全体的に柔らかく、地上茎には枝が輪生します。ツクシは本種の孢子囊穂です。

キク科

コセンダングサ

熱帯アメリカ原産の外来植物です。葉は下部で対生、上部で互生することもあり、2～3回羽状複葉です。小葉は卵状披針形で先は尖り、縁には鋸歯があります。よく似た外来植物である、アメリカセンダングサとは、コセンダングサがアメリカセンダングサに比べて小葉の幅が狭いこと、コセンダングサの果実が4稜形で芒が2-3本であるのに対して、アメリカセンダングサの果実は扁平で、芒が2本であることで区別することができます。





オオブタクサ

日本の侵略的外来植物ワースト100に記載されている外来植物です。非常に大型になり、高さ4mを超えることもあるそうです。葉は対生、長い葉柄があり、掌状に3-5裂し、クワの葉に似ています。花粉症の原因植物です。

ノボロギク

ヨーロッパ原産の外来植物です。葉は互生、不規則で大きな鋸歯があります。頭花は筒状花のみからなり、花弁は黄色です。



ヒロハホウキギク

北アメリカ原産の外来植物です。変種のホウキギクと区別することは難しいですが、ここではヒロハホウキギクとします。全体無毛で、中心の茎は直立、分枝した茎は横に広がります。（ホウキギクの分枝した茎は斜上します）

ヨモギ

至る所に普通に見られる植物です。葉は対生、羽状に切れ込みます。最近、多摩川では本種が増加しています。



セイトカアワダチソウ

北アメリカ原産の外来植物で、日本の外来種ワースト100に記載されています。秋に咲かせる黄色い花が有名ですが、この時期にはまだ花はありません。茎は直立し、赤みを帯びることがあります。地中を横走する地下茎を持ち、これで栄養繁殖を行います。葉は互生し、縁には普通鋸歯がありますが、全縁であることもあります。葉には短く硬い毛が密生しており、これは葉の基部から先端に向かって生えています。

ヒメムカシヨモギ

北アメリカ原産の外来植物です。至る所で見られます。茎は直立、葉は互生、まばらに鋸歯があります。今回実習を行う場所は、本種とよく似たオオアレチノギクもよく見られます。本種が荒い毛がまばらに生えているのに対し、オオアレチノギクは細かい毛が密生し、ビロード状になること。本種の舌状花が目立つのに対し、オオアレチノギクの舌状花は目立たないことで区別することができます。





ハルシャギク

北アメリカ原産の外来植物です。全草無毛、茎は直立します。葉は対生し、2回羽状複葉、小葉は非常に細長い線形です。舌状花の中心が黒いことから、ジャノメギクの名もあります。

ウリ科

アレチウリ

日本の侵略的外来植物ワースト100に記載されている外来植物です。つる性で茎はよく分枝し、長さは数mに達します。葉は互生し、短い葉柄があり、ほぼ円形となります。今回はこのような実生の状態で多く見られました。子葉の大きさに注目してください。



オオバコ科



ヘラオオバコ

ヨーロッパ原産の外来植物です。葉は直立または斜上し、縁には鋸歯はありません。花茎は葉よりもずっと高く伸びます。

ゴマノハグサ科

カワヂシャ

環境省のRDBにおいて、準絶滅危惧種に指定されています。葉は対生、長楕円形で、葉柄はないか、下部にはあることもあります。葉縁には低い鋸歯があります。外来植物のオオカワヂシャとよく似ていますが、本種は花卉がやや小さく、白～薄青色であることと、オオカワヂシャに比べて鋸歯の先端が尖ることで区別することができます。



オオカワヂサ

葉は対生、長楕円形で、葉柄はないか、下部にはあることもあります。葉縁には低い鋸歯があります。在来種のカワヂシャとよく似ていますが、花卉がやや大きく青紫色であること、カワヂシャに比べて鋸歯が低いことで区別することができます。また、カワヂシャより大型になり、高さは1.5mを超えることもあります。

セリ科

ヤブジラミ

果実に刺が生えており、服によくくっつきませんが、それをシラミに見立ててこの名前があります。葉は互生、1～2回3出羽状複葉で、小葉は細かく切れ込みます。



アカバナ科



コマツヨイグサ

北アメリカ原産の外来植物です。今回の場所では、茎は多くの場合平伏しますが、植物の多いところでは立ち上がることもあります。葉は互生、倒披針形～長円形～狭楕円形、縁は大きな鋸歯があります。花は葉腋につき、花弁は4枚、色は黄色で、花弁の先端は凹みます。

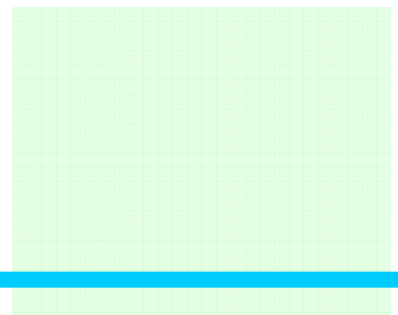
メマツヨイグサ

北アメリカ原産の外来植物です。この時期にはロゼットと部分ロゼットの両方の形態が見られます。部分ロゼットの場合、茎は直立し、根元にはロゼット葉が残ります。茎につく葉は互生し、縁には低い鋸歯があります。この時期の葉は、しばしば縁が大きく波打ち、ねじれることもあります。花弁は4枚、色は黄色で、花弁の先端は凹みます。夕暮れに多く開花することから、「ツキミノウ」の別名もあります。



ユウゲショウ

北アメリカ原産の外来植物です。茎は赤みを帯び、斜上または平伏し、基部にはロゼット葉が残ります。茎につく葉は互生し、楕円形で先は尖り、縁は低い鋸歯があります。花は濃いピンク色で、花弁は4枚です。



アワゴケ科

イケノミズハコベ

1990年に山梨県で初めて発見された外来植物です。茎はよく分枝して長く伸び、葉は倒卵形で対生します。多摩川にはよく似た在来種である、ミズハコベも多く生育しています。イケノミズハコベが気中葉(空气中で展開する葉)と沈水葉(水中で展開する葉)がほぼ同形であるのに対し、ミズハコベは、沈水葉が線形であることで、区別することができます。



マメ科



シロツメクサ

至る所でごく普通に見られる外来植物です。匍匐した茎から葉を立ち上げ、葉は普通3つの小葉で構成され、小葉の先端は凹みます。花弁は白色で、花は密に集まってつきます。

アカツメクサ

どこにでも普通に見られる外来植物です。茎は直立または斜上します。葉は3枚の小葉からなり、普通は表面に斑が入ります。花弁は赤紫色で、花は密に集まってつきます。





マルバヤハズソウ

丸石河原に多い植物です。茎は匍匐し、盛んに分枝します。葉は互生、3出複葉で、小葉の先端が凹みます。近縁のヤハズソウと混生することもあります。ヤハズソウは小葉の先端が凹まず、尖ることで区別することができます。

アブラナ科



オランダガラシ

外来植物です。クレソンと呼ばれ、食用になります。葉は互生、羽状複葉で、小葉は広卵形～円形。沈水状態で生育することもあり、沈水葉は非常に大きくなります。

セイヨウアブラナ

ユーラシア原産の外来植物です。普通見られるアブラナは大抵本種を指します。今の時期はほとんどロゼットです。ロゼット葉は葉柄があり、羽状複葉で先端の小葉が大きくなります。



マメゲンバイナズナ

北アメリカ原産の外来植物です。在来 nazuna と違って果実は単配形で、上部は多く分枝します。

スカシタゴボウ

葉は互生、葉柄は普通ありますが、無いこともあります。葉は深く切れ込み、羽状複葉のようになります。花弁は黄色です。多摩川にはよく似たイヌガラシも生育し、両者は混生しますが、スカシタゴボウの方が多く見られます。スカシタゴボウの果実は短く、長さ4-7mmであるのに対し、イヌガラシの果実は細長く、1-2cmであることで区別することができます。



ナデシコ科



ムシトリナデシコ

ヨーロッパ原産の外来植物です。葉は対生、基部は茎を抱きます。全体に緑白色をしており、無毛です。花は濃いピンク色で、花の下側の部分の茎に、粘液を分泌する茶色い部分があり、これに虫がくっついていることがあるため、この名前があります。

ノミノツヅリ

茎は細かく分枝し、地面を匍匐します。葉は対生し、葉柄はありません。全体に短毛が生えています。ノミノフスマに似ていますが、ノミノフスマは全体が無毛であるので区別することができます。





ウシハコベ

至る所に生育する種です。茎の下部は地面をはい、上部は立ち上がります。葉は対生、下部の葉は葉柄があり、上部は葉柄が無く、やや茎を抱くこともあります。柱頭は5裂します。

アカザ科

シロザ

茎は直立して、数多く分枝します。葉は互生、大きな鋸歯があります。写真のように新芽が白くなるものをシロザと呼び、赤くなるものをアカザと呼びます。



ケアリタソウ

メキシコ原産の外来植物です。葉は互生、卵形～披針形で、短く不明瞭な葉柄があり、縁には深く不揃いの鋸歯があります。葉をもみながらにおいを嗅ぐと、強いにおいがあります。

タデ科



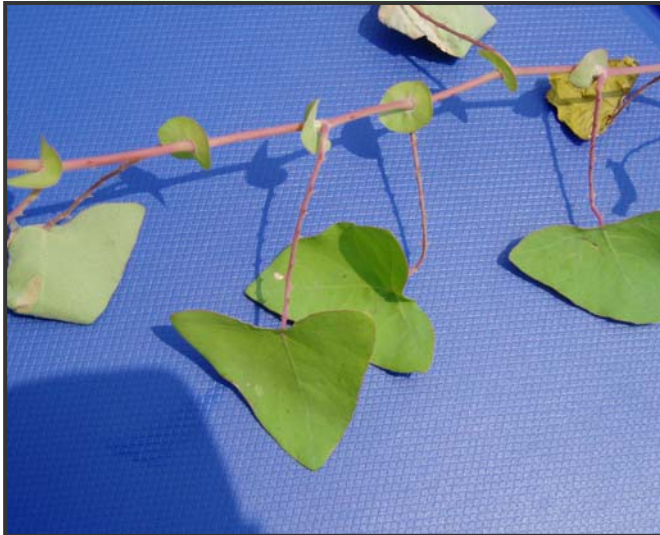
ミチヤナギ

葉はほとんど柄がなく、細長い卵形であることで、多摩川に生育する他のタデ属の植物と区別することが出来ます。



ミゾソバ

茎の下部は匍匐し、上部は直立します。葉は葉柄があり、基部が耳形に突き出たほこ形です。葉身の中央には褐色の模様があります。



イシミカワ

つる性の植物で、茎や葉柄には下向きの刺があるので、素手で触るときは注意してください。葉は正三角形、葉鞘の先端は葉状に広がり、特徴的な植物です。

サナエタデ

ヤナギタデやオオイヌタデに似ていますが、本種は葉に辛味がなく、葉鞘の縁に毛が生えないことで、ヤナギタデと区別することができます。オオイヌタデとは、オオイヌタデは節が膨らむのに対して、本種が膨らまないことで、区別することができます。



イタドリ

至る所に普通に生育する種です。茎は斜上または直立し、上部は盛んに分枝します。若い芽は食用になります。イギリスでは、日本から導入された本種が外来植物として問題になっています。

ヤナギタデ

オオイヌタデやサナエタデによく似ており、今回実習を行う場所でも混生していますが、本種は葉鞘の先端に毛が生えることや、葉を噛んだときに辛味があることで区別することができます。タデ食う虫も好き好きの「タデ」は本種で、刺身のつまとして売られているのは本種の栽培品種です。



イグサ科



イ

葉のように見えるのは茎で、円筒状で内部は空洞になっています。畳表やゴザの原料にするのは、本種の栽培品種です。

ガマ科

ガマ

よく見ると、短い茎があり、葉が互生しているのが分かります。多摩川に生育するガマの仲間は、多くが本種かヒメガマです。ヒメガマは本種に比べて葉の幅が狭いことで区別することができます。



カヤツリグサ科



メリケンガヤツリ

南北アメリカ原産の外来植物です。茎は正三角形で、稜があります。花序は多くの小穂が密生した、球形です。

イネ科



メヒシバ

どこにでも見られる植物です。茎は匍匐し、先端は直立し、近縁のオヒシバに比べて扁平ではありません。葉鞘には荒い毛が密生します。

オギ

ススキが一箇所に茎を密生し、株立ちになるのに対し、本種は地下茎を形成し、茎が地面から1本ずつ伸びることで区別することができます。



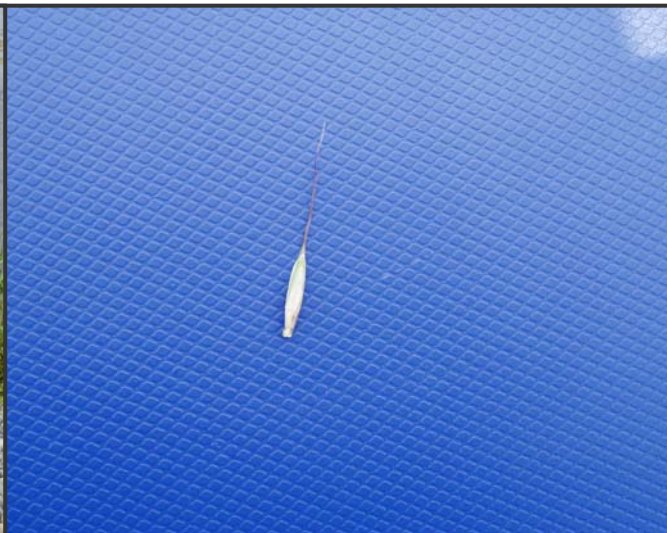
イヌビエ

この仲間は葉舌が全くないのが大きな特徴で、これでイヌビエ属であることが分かります。葉の縁には白い帯状の部分があります。芒が長く伸びるものをケイヌビエと呼ぶこともあります。変異は連続的です。タイヌビエは、葉の縁の白い帯状の部分より広いことで区別することができます。

カズノコグサ

写真のように、花序の枝に小穂が密生するために、この名前があります。





カモジグサ

至る所に生育する植物です。小穂には長い芒があります。よく似たアオカモジグサとは、本種が内花穎と外花穎が同じ長さで、外花穎の縁が無毛であるのに対し、アオカモジグサは内花穎の長さが外花穎の半分ほどの長さで、外花穎の縁に毛が生えることで区別することができます。



カラスムギ

史前帰化植物であるとされ、オートムギ（エンバク、マカラスムギ）と近縁で形態もよく似ています。花期が過ぎているため、今回見られるものは、ほとんどが果実が脱落している状態のものです。





シバ

全体が硬く、茎は地面を匍匐し、盛んに分枝します。

クサヨシ

ヨシに似ていますが、より小型であることから、この名前があります。ヨシの花期が秋であるのに対し、本種の花期は春～夏であるため、今回の実習では花を確認することが出来ます。



シナダレスズメガヤ

南アフリカ原産の外来植物です。日本の侵略的外来植物ワースト100に記載されています。大株になり、葉は幅1.5-2mmと、非常に細長いのが特徴です。



セイバンモロコシ

地中海沿岸原産の外来植物です。背が高く、中央の葉脈が白く、はっきりしています。花序はトウモロコシによく似ています。

スズメノテッポウ

全体が柔らかく、無毛です。花序は円柱形で、葯は白色のものと黄土色のものが混ざります。



ツルヨシ

ヨシに比べて河川の上流域に多いです。ヨシが地下茎で栄養繁殖するのに対し、本種は匍匐茎で栄養繁殖することで区別することができます。



ホソムギ

ヨーロッパ原産の外来植物です。多摩川では、本種に良く似た外来植物であるネズミムギも見られますが、両者は簡単に交雑し、更にその雑種は稔性を持ちます。そのため、多摩川で見られるものも、ほとんどがネズミムギとホソムギの中間型で、典型的なものはあまり多くはありません。ネズミムギとホソムギは芒の有無で区別することができます。写真は芒のない典型的なホソムギです。



ヒエガエリ

全体が柔らかい植物です。名前はヒエが変化したものであると考えられたためです。

ヨシ

ツルヨシに比べて河川の下流域に多く生育します。ツルヨシが匍匐茎を形成するのに対し、本種は地下茎で栄養繁殖することで区別することができます。



文責：杉山昇司（明治大学農学研究科 応用植物生態学研究室M2）
間違いを見つけたら、下記のHPの掲示板などで、遠慮なく教えてください。
よろしくお願いします。

応用植物生態学研究室のHP：<http://www.isc.meiji.ac.jp/~seitai/>

製作者のHP：<http://www.isc.meiji.ac.jp/~cf40209/>